

# 小麦赤かび病の2回目防除をしましょう！

令和4(2022)年5月13日

下都賀農業振興事務所

## 1. 気象経過・生育概況・発生状況

赤かび病の感染適期は開花期～乳熟期頃（4月末～5月中旬頃）に雨が多く、気温が比較的高く（20～27℃）経過すると激発する傾向があります。

今年の気象は、感染が起こりやすい気象条件が揃っています。

（1）開花期に降雨が続いた

（2）現在、小麦は乳熟期を迎える生育段階で、5月13日も降雨があった

（3）5月14日以降も雨天がちで気温は高めに推移する予報

すでに管内では不稔粒のみならず、稔実粒でも小麦で赤かび病の発生が散見されています。



不稔粒に感染した赤かび病



稔実粒に感染した赤かび病

## 2. 赤かび病防除のポイント

（1）小麦は、1回目散布を開花始に行い、2回目散布は天候や収穫日数を考慮して、1回目の15～20日後を目安に行いましょう。

多発のおそれがある場合は（登熟期連続降雨等）、3回目の散布を行うと効果的です。

※水稲作業の忙しい時期と重なってしましますが、薬剤防除は散布時期が重要です。また、赤かび病の発生した麦は商品価値がなくなってしまいますので、農薬の適正使用基準を厳守して薬剤散布を行いましょう。

※「タマイズミ」、「ゆめかおり」での注意点

蛋白質含有率を高めるため植物体の窒素濃度を高くするため、赤かび病やうどんこ病等の病害発生が多く見られます。開花期に薬剤散布を必ず実施するとともに、必要に応じて2回目散布を実施しましょう。

(2) 散布する薬剤は次表から選択しましょう。薬剤によって収穫前日数及び使用回数が異なるので、注意しましょう。

なお、耐性菌の発生を未然に防ぐために、同一グループの薬剤を連用は避けてください。

代表的な赤かび病防除の薬剤

農薬名	成分名	使用時期	RAC コード	特徴
シルバキュアフロアブル	テブコナゾール	収穫7日前まで	F:3	低濃度で幅広い病害に効果を示す。 予防効果と治療効果がある。 耐性菌が出やすい。
ワークアップフロアブル	メトコナゾール	収穫7日前まで	F:3	
チルト乳剤25	プロピコナゾール	収穫3日前まで	F:3	
トップジンM水和剤	チオファネートメチル	収穫14日前まで	F:1	特に子のう菌に効果が高い。 予防効果と治療効果がある。
トップジンMゾル	チオファネートメチル	収穫14日前まで	F:1	
ファンタジスタ顆粒水和剤	ピリベンカルブ	収穫14日前まで	F:11	幅広い抗菌活性があり、治療効果を示す。 耐性菌が出やすい。
ストロビーフロアブル	クレソキシムメチル	収穫14日前まで	F:11	
ミラビスフロアブル	ピジフルメトフェン	収穫7日前まで	F:7	既存の殺菌剤とは異なる新しい系統。 発生初期の病害の進展を阻止。
石灰硫黄合剤	石灰硫黄合	-	F:M02	予防剤で耐性菌が出にくい。 アルカリなので有機塩素剤、有機リン剤と混用できない。

- 注1) 令和4(2022)年5月13日時点で登録のある薬剤  
 2) 耐性菌の発生を未然に防ぐため、同一グループの薬剤の運用は避ける。  
 3) チオファネートメチル、テブコナゾール、メトコナゾール、ピジフルメトフェンは小麦のDON含有濃度を低減する効果が高い。

3. 赤かび粒が発生してしまった場合の対応

赤かび粒が混入するとロット全体が販売不能となります。

収穫前に発生状況を確認し、立毛中に発生が確認された麦は刈り分けしてください。また、荷受け時でのチェックを厳重に行い混入のおそれがある場合は別仕分けを行い、正常な麦と混合しないように十分注意しましょう。